トラック業界にも女性活用を

新局面 生み出す

未経験者を積極受け入れ 西川

チームワーク重視で成長 池田

女性が考える手法大切に 藤井

露出増やしてアピール 松山

社会貢献できる職場を 斎藤

「運送の見える化」必要 奈良

【7面から続く】

藤井　また、動画でドライバーの映像や仕事に対する思いを発信したり、通販サイト上でも産地から配達までの映像を流すなど、若者にもっとドライバーを身近に感じてもらい社会貢献度の高い仕事であることを理解してもらう工夫が必要だと思います。そして世論に対しても現在の高度に発達した物流システムはトライバーに支えられていて、彼らがいなければ「即日配達社会」は崩壊してしまうことを知ってもらうことから始めるべきではないでしょうか。

奈良　藤井さんが主張されるような「運送の見える化」は必要と常々思っていました。松山さんは業界のイメージアップに取り組んでいると聞きます。女性管理職として働きやすい環境はいかにつくるべきと考えますか。

松山　我が社も皆さんと同じような課題を抱えています。営業所によっては募集しても人が集まりません。現在、我が社では総務スタッフを除けば新卒者を採用していません。今後取り組むべき課題と考えています。新卒者を迎えるに際しては、内部体制の整備が重要になります。私も入社前は物流に対して「怖い」「汚い」といったネガティブイメージを持っていました。ところが実際入社してみると、ドライバーに優しい人が多いことが分かりました。

まじめで、細かいところにも気を配る……。父の背中を見て育ってきたはずなのに、何も分かっていなかったのです。それは、業界の発信力の弱さに起因しているかと感じています。人気があるのはキャリアパスが見える会社です。これが見えずに生涯ドライバーでは「将来、腰や足、目が悪くなったら家族を支えていけ」と不安を抱いてしまいキャリアのあらゆる賃金体系と資格制度を動した仕組みをつくらばならないと思っています。は検討の段階です。

西川　ドライバー用が多いのですが、働いていただけるよう添乗といったこ

奈良　タクシー業界も同様に人手不足が問題で、ある事業者はキャリアパスを示すことで、新卒者が集まりやすくなったという話しも聞いています。

斎藤　それでも、ドライバーがたくさん集まる事業者もいます。発信の仕方が非常に重要だと思います。弊社では月1回の社内研修時、ゴミ拾い活動や植樹活動などに地道に取り組んでいます。また、ドライバーの人間性を高めることも重要と考え、人間学の月刊誌を全社員に支給し感想文を持ち寄っての勉強会を開催してきました。

人前できちんと話せるようになって欲しいとの思いから始めたのですが、「勉強が嫌だからドライバーになったのに何を今更」など不評でした。ところが3年限定だった勉強会が終わり、あるドライバーから「勉強したかったけど貧乏で勉強できなかった。初め社長に無理やりやらされたことだけど、この歳になって読み書きが苦でなくなって本当に良かったよ。遠くに出掛けたら社長に手紙を書くからね」と言われて胸が熱くなりました。

4月から高校新卒者の採用を決定していますが、大切に育てていこうと考えています。この業界は本当に心優しい人ばかりです。そんな仲間の集まる私たちの業界がもっと社会に認められることを願っています。

奈良　とても良いお話ですね。最後にいまだ業界には数少ない女性経営者・幹部として感じることはありますか。女性の視点で気が付かれたことや心掛けていることがあれば、全体的な感想も含めお聞かせ願います。

池田　私と運輸営業部本部長の女性2人で社内教育を担当していますが、男性経営者とは視点が違うと思います。女性は営業よりも社員の育成の方に目が向くので、人材育成は母親目線で女性が担当するのは効果的です。その分、営業や運転などは男性に任せるなどチームワーク重視でいくべきです。社員一人ひとりが成長することで、満足・安心できる会社となった結果、会社の体力が向上していれば良いです。

藤井　会議の在り方でも男性はピラミッド型の秩序ある方法を好み、女性は平等に意見を出し合うのを好むと言われています。まだまだ男性社会である業界の現状を打開するためにも、もっと女性の（考える）手法を取り入れていただきたいですのですが、女性経営者の声がなかなか届きにくいというのが実態です。高齢化・人口減少が今後ますます深刻化する中、女性と高齢者のドライバーも貴重な戦力になってきます。それを助ける手段として人口筋肉で重いものを楽に持つことができる「マッスルスーツ」「ロボットスーツ」の導入を研究し、トラック協会を通じて国に対し補助を働き掛けていただきたいと思います。

松山　今回初めて座談会に出席したのですが、出席者の皆さんがとても華やかでびっくりしました。様々な物流関係の会合に出る機会があるのですが、行く先々で、女性は私一人というケースが多く、「若い女性（経営者）もいるんだ」「物流関係者と見えなかった」など好奇の目で見られがちでした。今回女性だけの座談会という場を設けていただけたことは、これからは経営者自身がもっとやして「女性経営者だ」ということをしていきたいと思ちろん業界の外にしていくべきですラック業界に女性よく言いますが、（情報技術）業界少ないです。ほか少ない業界はけて、決して物流業いうわけではあり

斎藤　現場（ドクな部分）は不得「自分で運転できだろうな」と思いないことは役割分きます。私のよう業承継した女性経業界で多いと思い

業界のイメージめにも女性経営者アピールできればする社会の見方がも知れません。高がこれからの日本くことになるでし経営者だからこそ点で広く社会に貢場を提供していけいでしょうか。

PROFILE

エコトラック/社長
池田　治子氏

いけだ・はるこ　1964年1月、大阪府富田林市生まれ。神戸大学法学部卒業。京阪百貨店入社後、夫が経営するネットワークの監査役を経て、2009年3月から現職。

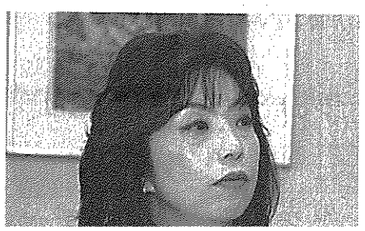
西川運輸興業/取締役
西川　直美氏

にしかわ・なおみ　1976年12月、新潟市中央区生まれ。米ペース大学ルービンスクールオブビジネス修了。サザビーズインターナショナル・リアルティ入社後、リダックを経て、2012年5月、西川運輸興業入社、現職。

PROFILE

東群運送/社長
斎藤佳代子氏

さいとう・かよこ　1960年1月、長野県佐久市生まれ。法政大学文学部卒業。ヤマト運輸を経て、90年にパートとして東群運送に入社。2003年5月から現職。

新日本物流/代表取締役常務
松山　恵美氏

まつやま・えみ　1982年1月、東京都八王子市生まれ。米コロンビア大学大学院修了。2007年新日本エンジニアリング入社。13年7月から現職。